

解答は、すべて解答用紙に記入して必ず提出してください。

第219回簿記能力検定試験 問題用紙

1 級 商業簿記・財務会計

(令和7年7月13日施行)

問題用紙（計算用紙含）は回収します。持ち帰り厳禁です。

注 意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
- ・この試験の制限時間は1時間30分です。
- ・解答は、問題の指示にしたがい、すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。
- ・解答用紙の会場コードは、試験担当者が指示した6桁の数字を頭の0(ゼロ)を含めてすべて書いてください。
受験番号1番の場合、右寄せで1とだけ書いてください。
受験番号90001番の場合、90001と書いてください。
受験番号を記入していない場合や、氏名を記入した場合には、採点の対象とならない場合があります。
- ・印刷の汚れや乱丁、筆記用具の不具合などで必要のある場合は、手をあげて試験担当者に合図をしてください。
- ・机の上に置けるものは、受験票、黒鉛筆、黒シャープペン、消しゴム、定規、計算用具だけです。
- ・黒鉛筆または黒シャープペン以外で書いてあるものは不正解とします。
- ・ボールペンを使用してはいけません。
- ・下敷きは、机の不良などで特に許されたもの以外は使用してはいけません。
- ・計算用具(そろばん・計算機能のみの電卓など)を使用してもかまいません。
- ・解答用紙は、持ち帰りできませんので白紙の場合でも必ず提出してください。
解答用紙を持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
- ・**簿記上本来赤で記入する箇所も黒で記入すること。**
- ・**解答は、必ず解答用紙に記入してください。**
- ・**金額には3位ごとのカンマ「,」を記入すること。**
ただし、位取りのけい線のある解答用紙にカンマ、上付きカンマ(′)で解答しているものは不正解とします。
また、カンマ「,」(数字の下側に左向き)と小数点「.」は明確に区別できるようにすること。

主 催 公益社団法人 全国経理教育協会
後 援 文 部 科 学 省
日 本 簿 記 学 会

第219回簿記能力検定試験問題

1級 商業簿記・財務会計

解答は解答用紙に

第1問 次の企業会計原則及び同注解に準拠した文章の（ア）から（コ）にあてはまる語を下の語群から選び、その番号を書きなさい。なお、同一の記号には、同一の語が入る。（20点）

- （ア）は、企業の（イ）を明らかにするため、（ア）日におけるすべての資産、（ウ）及び（エ）を記載し、株主、債権者その他の利害関係者にこれを正しく表示するものでなければならない。ただし、（オ）の原則に従って処理された場合に生じた簿外資産及び簿外（ウ）は、（ア）の記載外におくことができる。
- 企業の財政に不利な影響を及ぼす可能性がある場合には、これに備えて適当に（カ）な会計処理をしなければならない。ただし、過度に（キ）的な会計処理を行うことにより、企業の（イ）及び（ク）の真実な報告をゆがめてはならない。
- 将来の特定の費用又は損失であって、その（ケ）が当期以前の事象に起因し、（ケ）の可能性が高く、かつ、その金額を（コ）的に見積ることができる場合には、当期の負担に属する金額を当期の費用又は損失として引当金に繰入れ、当該引当金の残高を（ア）の（ウ）の部又は資産の部に記載するものとする。

1	発	生	2	企 業 会 計	3	政 策	4	負 債	5	決 算
6	義 務	7	貸 借 対 照 表	8	保 守	9	収 益	10	正 規 の 簿 記	
11	明 瞭	12	財 政 状 態	13	利 益	14	合 理	15	継 続 性	
16	健 全	17	会 計 事 実	18	資 本	19	偶 発	20	経 営 成 績	

第2問 次の取引を仕訳しなさい。仕訳が不要の場合には、借方科目欄に「仕訳なし」と記入すること。また、勘定科目は、以下より最も適当なものを選ぶこと。（24点）

現	金	普	通	預	金	当	座	預	金	売	買	目	的	有	価	証	券							
商	品	貯	蔵	品	未	収	有	価	証	券	利	息	未	収	金									
他	店	商	品	券	建	物	建	物	減	価	償	却	累	計	額	建	設	仮	勘	定				
そ	の	他	有	価	証	券	差	入	有	価	証	券	保	管	有	価	証	券	短	期	借	入	金	
未	払	金	未	払	社	債	利	息	商	品	券	社	債	保	險	差	益							
長	期	借	入	金	売	上	有	価	証	券	利	息	保	險	差	益								
有	価	証	券	運	用	損	益	売	上	原	価	減	価	償	却	費	修	繕	費					
社	債	利	息	火	災	損	失	そ	の	他	有	価	証	券	評	価	差	額	金	火	災	未	決	算

- 当期首に火災が発生し、倉庫（取得原価¥16,800,000、減価償却累計額¥10,500,000、間接法で記帳）及び商品¥18,320,000が焼失した。
 - 火災発生時の仕訳を示しなさい。なお、倉庫及び商品に¥25,000,000の火災保険をかけていた。
 - (1)について、火災の1か月後に、保険会社より保険金¥23,450,000が支払われる旨の通知を受けた。
- 当社は、当期首に建物（取得原価¥35,000,000、減価償却累計額¥30,800,000、改修前の残存耐用年数6年）の大規模な改修が完了した。改修費¥12,600,000のうち、支払済みの手付金¥6,000,000を差し引いた残額について小切手を振り出して支払った。なお、当該改修の結果、改修後の耐用年数はさらに10年延長したと見積られる。また、前期末までに支払済みの手付金は建設仮勘定で処理している。
- 岡山物産株式会社から¥4,000,000を期間6か月で借り入れ、現金で受け取った。また、担保として長期投資の目的で保有している広島商会株式会社の株式2,500株（1株あたりの帳簿価額¥1,300、時価¥2,300）を差し入れた。
- 令和6年12月1日に、額面総額¥50,000,000、発行価額¥100につき¥97.3、償還期限4年、券面利率年0.6%（利払日は5月31日及び11月30日）の条件で社債を発行した。額面金額と発行価額との差額については、償却原価法（定額法、月割計算）により処理する。令和7年3月末に必要な決算整理を行う。
- 令和6年3月に現金¥42,385,000を受け取って発行した商品券のうち券面額¥1,679,000が未使用のまま有効期限が切れたので売上勘定へ振り替える。

第3問 鳥取物産株式会社（決算日3月31日）では、普通仕訳帳のほかに当座預金出納帳のみを特殊仕訳帳として用いており、売掛金勘定及び買掛金勘定を特別欄としている。次の取引を当座預金出納帳に記帳し、総勘定元帳及び補助元帳（一部）に転記しなさい。なお、転記は日付と金額のみでよい。（12点）

- 2月4日 皆生商店に商品¥110,000を販売し、代金は当座預金口座に振り込まれた。
 9日 鹿野商店に対する買掛金¥25,000を支払うため、小切手を振り出した。
 18日 三朝商店に対する売掛金¥40,000を小切手で受け取り、ただちに当座預金口座へ預け入れた。
 23日 水道光熱費¥166,000が当座預金口座から引き落とされた。
 28日 当座預金出納帳を締め切る。ただし、総勘定元帳及び補助元帳を締め切る必要はない。

第4問 米子建設株式会社（決算日3月31日）は、令和4年11月に受注した甲商業施設の建設工事について、令和6年11月までに完成し顧客へ引き渡した。次の資料にもとづき、各年度の損益計算書に計上される工事収益、工事原価、工事利益の額を求めなさい。金額がマイナスのときは、金額の前に△を付すこと。（12点）

（単位：千円）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
工事契約で定められた受取対価の総額	20,000,000	20,000,000	20,000,000
過年度に発生した工事原価の累計額	—	4,480,000	12,420,000
各年度に発生した工事原価	4,480,000	7,940,000	7,310,000
決算日に見直した工事原価総額	16,000,000	18,000,000	—

〔計算に際して考慮すべき事項〕

1. 工事を受注した時点では工事原価総額を15,000,000千円と見積っていたが、資材の高騰や人件費の上昇を理由として各決算日に、工事原価総額の見積額を見直している。受取対価の額は当初のままであった。
2. 工事の進行途上において、その進捗部分について成果の確実性が認められると判断していた。決算日における工事の進捗度を見積る方法として、いわゆる原価比例法を採用している。

第5問 株式会社倉吉商会は第6期（令和6年1月1日～令和6年12月31日）中に支店を開設した。支店の会計は、本店の会計から独立させている。〔資料1〕決算整理前残高試算表、〔資料2〕未達事項及び〔資料3〕決算整理事項等にもとづき、次の問に答えなさい。決算日の為替相場は、1ドルあたり160円とする。（32点）

- 【問1】〔資料2〕の未達事項を整理した後、本店における支店勘定の残高及び支店における本店勘定の残高を、それぞれ答えなさい。
 【問2】貸借対照表の資産の部を完成しなさい。
 【問3】損益計算書を完成しなさい。
 【問4】ROE（自己資本当期純利益率）を求めなさい。なお、自己資本については、期中平均ではなく期末の金額を用いること。解答上の端数は、%の小数第1位未満を四捨五入して小数第1位まで示すこと。

〔資料1〕決算整理前残高試算表

残 高 試 算 表					(単位：千円)		
令和6年12月31日							
借 方 科 目	本 店	支 店	貸 方 科 目	本 店	支 店		
現金	1,920	570	買掛金	7,560	—		
当座預金	39,480	5,680	外貨建買掛金	4,530	—		
受取手形	14,600	—	仮受消費税	23,080	4,240		
売掛金	25,100	9,800	本店	—	9,330		
売買目的有価証券	10,440	—	所得税預り金	1,350	430		
繰越商品	12,900	—	貸倒引当金	910	—		
仮払金	14,700	—	建物減価償却累計額	21,870	—		
仮払消費税	15,930	2,790	備品減価償却累計額	6,300	—		
支店	12,250	—	資本	60,000	—		
建物	32,400	—	資本準備金	60,000	—		
備品	22,500	—	別途積立金	7,000	—		
土地	45,190	—	繰越利益剰余金	20,200	—		
その他の有価証券	8,700	—	売上	230,800	42,400		
仕入	65,030	18,120	受取地代	5,400	—		
給料	43,760	9,200	有価証券運用損益	1,000	—		
広告宣伝費	49,870	4,200					
水道光熱費	35,230	6,040					
	450,000	56,400		450,000	56,400		

〔資料2〕未達事項

1. 本店より支店へ発送した商品30個（34千円／個）が、支店に未達である。
2. 本店は支店の水道光熱費700千円を支払ったが、支店に未達である。
3. 支店は本店へ現金1,700千円を送金したが、本店に未達である。
4. 支店は本店の売掛金500千円を回収したが、本店に未達である。

〔資料3〕決算整理事項等

1. 売上債権の期末残高に対して、2%の貸倒引当金を見積る（差額補充法によること）。
2. 外貨建買掛金勘定は、米国Y社から仕入れた商品40千ドルのうち令和7年2月に支払う30千ドルである。
3. 保有する有価証券は、次のとおりである。

銘柄	保有株(口)数	取得原価	期末時価	保有目的
出雲会社株式	24千株	155円／株	160円／株	短期的な価格変動による値上がり益
福山会社債券	70千口	96.0円／口	95.0円／口	短期的な価格変動による値上がり益
防府銀行株式	5千株	1,740円／株	1,640円／株	資金調達を円滑に行う（注）

（注）全部純資産直入法を適用する。また、法定実効税率を26%とした税効果会計を適用する。

4. 期末商品棚卸高は、次のとおりである。ただし、〔資料2〕1.の未達分は含まれていない。
なお、棚卸減耗費は特別損失の区分に計上する。

	期 末 数 量		取 得 原 価	正味売却価額
	帳簿棚卸数量	実地棚卸数量		
本 店	450個	435個	18千円／個	40千円／個
支 店	120個	110個	34千円／個	63千円／個

5. 有形固定資産の減価償却を行う（残存価額はゼロとし、過年度の償却計算は正しく行われている）。
建物 定額法 償却率0.050
備品 200%定率法 耐用年数10年
6. 仮払金勘定の内訳は、次のとおりである。
(1) 令和6年8月に当座預金口座から中間納付した法人税等 5,000千円
(2) 令和6年3月に賃貸収益を目的とした土地の取得原価 9,700千円
なお、(2)については、期末時価が14,400千円と見積られている。
7. 仮払消費税勘定及び仮受消費税勘定について、適切に処理すること。
8. 当期の法人税等10,750千円を計上する。

※氏名は記入しないこと。

【禁無断転載】

会場コード				
受験番号				

第219回簿記能力検定試験

1級 商業簿記・財務会計 解答用紙

得点
点

制限時間
【1時間30分】

第1問 (20点)

第1問採点

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ

第2問 (24点)

第2問採点

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1 (1)				
1 (2)				
2				
3				
4				
5				

第3問採点

第3問 (12点)

当座預金出納帳

1

[illegible]

総勘定元帳

	当 座 預 金	1
2/ 1 前月繰越	195,000	
	買 掛 金	7
	2/ 1 前月繰越	67,000
	仕 入	15

	売	掛	金	3
2/ 1 前月繰越	162,000			
	売	上		10
	水	道	光	熱
	費			22

得意先 (売掛金) 元帳

三 朝 商 店		得 2
2/ 1 前月繰越	52,000	

仕入先 (買掛金) 元帳

鹿 野 商 店	仕 1
2/ 1 前月繰越	33,000

第4問採点

第4問 (12点)

(単位：千円)

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
工 事 収 益			
工 事 原 価			
工 事 利 益			

第5問採点

第5問 (32点)

【問1】

本店における支店勘定	支店における本店勘定
千円	千円

【問2】

貸借対照表
(株)倉吉商会 令和6年12月31日 (単位：千円)

資 産 の 部	金 額
流 動 資 産	
現金及び預金	()
受取手形	14,600
売掛金	()
貸倒引当金	△ () ()
有価証券	()
商 品	()
流動資産合計	()
固 定 資 産	
有形固定資産	
建物	32,400
減価償却累計額	△ () ()
備 品	22,500
減価償却累計額	△ () ()
土 地	()
有形固定資産合計	()
投資その他の資産	
投資有価証券	()
()	()
()	()
投資その他の資産合計	()
固 定 資 産 合 計	()
資 産 合 計	()

【問3】

損 益 計 算 書

(株)倉吉商会 自令和6年1月1日 至令和6年12月31日 (単位:千円)

売 上 高		()
売 上 原 価		
期首商品棚卸高	12,900	
当期商品仕入高	()	
合 計	()	
期末商品棚卸高	()	()
()利益		()
販売費及び一般管理費		
給 料	52,960	
貸倒引当金繰入	()	
広 告 宣 伝 費	54,070	
減 価 償 却 費	()	
水 道 光 熱 費	()	()
営 業 利 益		()
営 業 外 収 益		
受 取 地 代	()	
()	()	()
営 業 外 費 用		
()	()	()
()利益		()
特 別 損 失		
棚 卸 減 耗 費	()	()
税引前当期純利益		()
法 人 税 等		10,750
当 期 純 利 益		()

【問4】

ROE (自己資本当期純利益率)
%

※氏名は記入しないこと。

全4ページ

①

【禁無断転載】

会場コード				
受験番号				

第219回簿記能力検定試験

1級 商業簿記・財務会計 解答

制限時間
【1時間30分】

第1問 (20点)

@ 2点×10=20点

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
7	12	4	18	10	16	8	20	1	14

第2問 (24点)

@ 4点×6=24点

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1 (1)	建物減価償却累計額 火災未決算	10,500,000 24,620,000	建商 物品	16,800,000 18,320,000
1 (2)	未収金 火災損失	23,450,000 1,170,000	火災未決算	24,620,000
2	建修繕費	7,875,000 4,725,000	建設仮勘定 当座預金	6,000,000 6,600,000
3	現金 差入有価証券	4,000,000 3,250,000	短期借入金 その他有価証券	4,000,000 3,250,000
4	社債利息	212,500	未払社債利息 社債	100,000 112,500
5	商品券	1,679,000	売上	1,679,000

第3問 (12点)

●印@2点×6＝12点

当座預金出納帳 1

7年	勘定科目	摘要	元丁	売掛金	諸口	7年	勘定科目	摘要	元丁	買掛金	諸口
2	4	売 上	皆生商店	10		2	9	買 掛 金	鹿野商店	仕 1	25,000
	18	売 掛 金	三朝商店	得 2	40,000●		23	水道光熱費		22	166,000
					40,000					25,000	166,000
	28		売 掛 金	3			28		買 掛 金	7	25,000●
	〃		当座預金	1			〃		当座預金	1	191,000
	〃		前月繰越	✓			〃		次月繰越	✓	154,000
					345,000						345,000

注 前月繰越や次月繰越の日付部分には、「〃」を記入しなくても良い。

総勘定元帳

当 座 預 金 1				売 掛 金 3			
2/ 1	前月繰越	195,000	2/28	191,000●	2/ 1	前月繰越	162,000
28		150,000			2/28		40,000●
買 掛 金 7				売 上 10			
2/28		25,000	2/ 1	前月繰越	67,000	2/ 4	110,000
仕 入 15				水 道 光 熱 費 22			
				2/23		166,000	

得意先（売掛金）元帳

三 朝 商 店				得 2
2/ 1	前月繰越	52,000	2/18	40,000

仕入先（買掛金）元帳

鹿 野 商 店				仕 1
2/ 9	25,000	2/ 1	前月繰越	33,000

第4問 (12点)

●印@2点×6＝12点

(単位：千円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
工 事 収 益	● 5,600,000	● 8,200,000	● 6,200,000
工 事 原 価	4,480,000	7,940,000	7,310,000
工 事 利 益	● 1,120,000	● 260,000	● △ 1,110,000

第5問 (32点)

●印@2点×16=32点

【問1】

本店における支店勘定	支店における本店勘定
● 11,050 千円	11,050 千円

【問2】

貸 借 対 照 表

(株)倉吉商会

令和6年12月31日

(単位：千円)

資 産 の 部	金 額
流 動 資 産	
現金及び預金	(● 49,350)
受取手形	14,600
売掛金	(34,400)
貸倒引当金	△ (980) (● 48,020)
有価証券	(10,490)
商品	(● 12,590)
流動資産合計	(120,450)
固 定 資 産	
有形固定資産	
建物	32,400
減価償却累計額	△ (23,490) (● 8,910)
備品	22,500
減価償却累計額	△ (9,540) (● 12,960)
土地	(45,190)
有形固定資産合計	(67,060)
投資その他の資産	
投資有価証券	(● 8,200)
● (繰延税金資産)	(130)
● (投資不動産)	(9,700)
投資その他の資産合計	(18,030)
固 定 資 産 合 計	(85,090)
資 産 合 計	(205,540)

順
不
問

【問3】

損 益 計 算 書

(株)倉吉商会 自令和6年1月1日 至令和6年12月31日 (単位:千円)

売 上 高	(	273,200)
-------	---	----------

売 上 原 価

期首商品棚卸高	12,900
---------	--------

当期商品仕入高	(● 84,170)
---------	------------

合 計	(97,070)
-----	------------

期末商品棚卸高	(13,200)	(83,870)
---------	------------	------------

● (売 上 総)利益	(189,330)
-------------	-------------

販売費及び一般管理費

給 料	52,960
-----	--------

貸倒引当金繰入	(70)
---------	--------

広 告 宣 伝 費	54,070
-----------	--------

減 価 償 却 費	(4,860)
-----------	-----------

水 道 光 熱 費	(● 41,970)	(153,930)
-----------	-------------	-------------

営 業 利 益	(35,400)
---------	------------

営 業 外 収 益

受 取 地 代	(5,400)
---------	-----------

● (有価証券運用益)	(1,050)	(6,450)
-------------	-----------	-----------

営 業 外 費 用

● (為 替 差 損)	(270)	(270)
-------------	---------	---------

(経 常)利益	(41,580)
-----------	------------

特 別 損 失

棚 卸 減 耗 費	(● 610)	(610)
-----------	----------	---------

税引前当期純利益	(40,970)
----------	------------

法 人 税 等	10,750
---------	--------

当 期 純 利 益	(30,220)
-----------	------------

【問4】

ROE (自己資本当期純利益率)

● 17.1 %
